

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス なないろ		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和7年 年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 5日		～ 令和7年 12月 18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども1人ひとりの思いを尊重し、発達の状態に合わせた多彩な活動を提供できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童分野と障害分野の研修を事業所全体で定期的に行い学びを得た職員がチームで活動を考案している。 ・職員と個別に行う活動とお友だちとのかかわりを感じる集団活動を組み合わせ、1人ひとりが楽しめる内容や方法を工夫している。 ・看護師の健康観察がある中で安心して活動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も事業所全体で多様な学びを深め、子どもたちが安心して楽しくすごすための環境づくりをする。 ・発達を後押しする個別活動のバリエーションを増やす。
2	多種の専門職がいるため様々な視点で、子ども1人ひとりの支援と家族へのサポートができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の打合せと振り返りの時間に職員各自の気づきを伝え合う他、意見交換の場を多く設定し、お互いに意見を出しやすい環境づくりをしている。 ・送迎時や面談時等にご家族から気になることを気軽に伝えていただける環境づくりをし、必要に応じて関係機関と連携した対応をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性を発揮し、発想を豊かに支援の充実を図る。 ・ご家庭や学校、関係する事業所、地域自立支援協議会等と連携した支援で本人の発達と家族全体の生活を支える。
3	法人内の他事業所と気軽に交流ができる。災害など有事の際に協力ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校卒業後に利用する可能性のある生活介護事業所と一緒にレクリエーションに参加したり、敬老の日に高齢者福祉施設の方々とふれあうなど世代間交流の場を設定している。 ・法人内の様々な職員に普段から慣れ、他施設を利用するときに安心できるよう環境づくりをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の生活と将来的な移行へ向け、少しずつ様々な環境に適應できるように他事業所と協力して体験の場を拡げる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	近隣にあそべる場所が少ない。	外出の機会を増やし社会体験を拡げる取り組みをしているが近場に出かけられる施設が少ない。	車椅子で出かけやすい場所を開拓する。また、少し距離を伸ばして出かけることが可能か、利用児の体調と車両や人の手配等を含め検討する。
2	地域の方とのふれあいを増やしたい。	地域の人に事業所のことを知っていただく機会が少ない。	事業所を紹介する機会を増やしたり定期的に来ていただけるボランティアさんを募集する等地域で子どもたちのことを支える人を増やす。
3	部屋がおしゃれな今風の造りではない。	部屋がワンフロアで見渡しが良く広さがある点はよいが区切りがない。床など設備がおしゃれな感じではない。	今後もパーティションを利用しての個別空間や別室の利用を工夫する。フロアマット等を敷くなどして温かみのある空間をつくる。